



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	技術報告：小果樹クロミノウグイスカグラ(ハスカップ)について
Author(s)	堀，廣孝
Citation	北海道大学農学部附属農場技術業務報告，5，90-91
Issue Date	2001-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34482
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_p90-91.pdf



小果樹クロミノウグイスカグラ（ハスカップ）について

堀 廣孝

北海道大学農学部附属農場

北海道では、クロミノウグイスカグラ(*Lonicera caerulea* L.var. *emphylllocaryx*)を中心として、一部これにケヨノミ(*Lonicera caerulea* L. var. *edulis*)を含めたものをハスカップ（アイヌ語に由来する名称）と呼んでいる。これらは、スイカズラ科の灌木で、野性の果樹として利用されている。しかし、実際に栽培化されているのは、樹体や果実が大きいクロミノウグイスカグラで、通常これがハスカップと呼ばれている。

1. 自生地、栽培地域及び植物としての特性

クロミノウグイスカグラは、中国東北部、朝鮮半島、シベリア東部、千島列島南部、日本（北海道、本州中部以北）に自生しており、耐寒性の強い植物である。北海道では、主として、勇払原野、釧路湿原、霧多布湿原、別海町周辺、大樹町周辺などに自生している。現在では、北海道内各地で栽植されているが、農家における栽培は、1977 年頃に美唄市で、1978 年に千歳市で行われたのが始まりである。特に苫小牧周辺の開発に伴い、この地域（勇払原野）の自生株が栽培化されたものが多いといわれている。現在の栽培面積は、160ha 以上となっている。

ハスカップは、高さ 1～2m の落葉性灌木で、多数の枝が地際から発生し、叢状の樹形となる。葉は、濃緑色で、長さ 3～8cm、幅 1.5～3 cm で葉縁には欠刻がない。5 月中旬～6 月上旬に開花するが、花は黄白色、ラッパ状の筒状花で、長さ 1.5 cm 程度である。雌雄同花であるが、自家受精率は低く 10%程度であり、自然受粉で、約 70%程度の結実率である。

果実は長さ 1.0～1.5 cm、重さ 0.5～1.0g の液果（漿果）で、形は、円形、長円形、卵形、円筒形、銚子形など多様である。開花後 30～40 日で成熟し、果皮が緑色から黒紫色へと変わり、6 月下旬～7 月下旬に収穫できるようになる。

2. 品種の育成

クロミノウグイスカグラでは、樹体の形状、葉及び茎などの性状をはじめ、果実の大きさ、形、果皮色、甘味、酸味、苦味などが、株や系統によってかなり異なっている。近年になって、優良系統の選抜が行われ、新しい品種・系統の育成が試みられた。

北海道立中央農業試験場では、1967 年から、苫小牧周辺で採集した自生株及びそれに由来する実生について調査し、その中の 60 系統につき選抜を行って、優良なものを見出し、1992 年に「ゆうふつ」の名称で、初めて品種として登録された。「ゆうふつ」は早生で、果実が大きく多収で、酸度が低く、食味の良い品種である。

3. 栽 培

クロミノウグイスカグラは、挿し木繁殖、種子繁殖、組織培養などによって増殖することができるが、現在のところ、主として挿し木によって増殖されている。

本圃への定植は、春秋いずれでもよいが、定植後の作業性なども考慮すると、10a 当たり 300 株（畦幅 2.5m、株間 1.2～1.5m）程度がよい。

土壌については、弱酸性であり、保水性、排水性の良いことが望ましいが、土壌適正は広く、火山灰土や泥炭地でも栽培することができる。ただし、浅根性であるから、根が露出しないようにするためと、乾燥防止のため、株元にはわらなどを敷きマルチを行うと良い。

施肥は、樹齢、生育状況、土壌の肥沃度によっても異なり、おおよそ、10a 当たりの窒素：リン酸：カリウムとして、幼株（2 年生まで）3：3：3、若株（3～5 年生）6：6：6、成株（6 年生以上）8：8：8 が良いとされているが、状況に応じて、今後さらに検討する必要があると思われる。

整枝剪定についてみると、放任すると 4～5 年目には、枝が込み過ぎるので、結実を安定させるため、融雪後から萌芽前までに行うか、落葉後の休眠期に行う。この場合、間引きにより主枝を更新する方法と、主枝は更新せず結実部を更新する方法とがある。

病害については、展葉期から開花期にかけて多湿になると、灰色かび病、菌核病が発生しやすいが、登録された殺菌剤がないので、他の果樹で用いられているもの（チオファネートメチル剤など）が使用されている。虫害については、アブラムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類などがあるが、アディオン乳剤（アブラムシ類）、ピフェントリン（ハマキムシ類）などが有効で、登録されている。

収穫は、6 月下旬から 7 月下旬にかけて行われ、新梢の基部に着生するものから成熟し始めるが、一つの株の収穫期間は 2～3 週間で、系統によって、熟期や、果柄と果実の分離の難易なども異なっている。収穫は、手取りによって行われ、平均 1 人当たり 1 日 1～1.3kg となっている。機械収穫（吸引式、振動式）も検討されているが普及するまでに至っていない。

4. 利 用

生食するほか、加工品として利用されることが多い。塩漬け、焼酎漬け、ジュース、シロップ、ソース、ゼリー、ジャム、ワイン、リキュール、酢などに加工されるほか、キャンディ、ケーキ、キャラメル、チョコレート、アイスクリーム、ガムなどの菓子類にも利用されている。最近、機能性食品としても注目されており、ビタミン E（抗酸化物質）が多く含まれ、果皮に含まれるアントシアニンも注目されている。このほか、色素が「ハスカップ染め」として染色に用いられている。また、経営面では、観光果樹園としても利用されている。

このようなクロミノウグイスカグラ（ハスカップ）が今後広く利用されることを期待したい。